令和8年5月1日 第3号

斐太北小　ESDだより

Education for Sustainable Development（持続可能な社会の創り手を育む教育）

５ 月　― 新しい風が、子どもたちの学びを動かし始めています　―

■ 低学年部：「わくわく」から始まる学び

低学年部では、CS（コミュニティ・スクール）の皆さん３名をゲストティーチャーとしてお招きし、野菜づくりの学びがスタートしました。

子どもたちは、「どんな野菜を育てたい？」という問いに、目を輝かせながら答えます。トマト、にんじん、ピーマン、さつまいも……。

その一つ一つを見つめながら、「これは実を食べるの？」「実？根っこ？ 葉っぱ？ 」と、食べる部分にも目を向けていきました。

わくわくから始まり、世界の見方が少し広がる ―― これこそ、ESD の入り口です。

■ 中学年部：足元の自然に問いをもつ

中学年部は、学校を出て内川や山川の川沿い、そして矢代川沿いを歩きました。

きっかけはとても素朴な問いです。

「学校のすぐ近くにある内川って、どんな川だったっけ？」
実際に歩きながら、子どもたちはつぶやきます。

「水の色が違う」「内川と山川を歩いたけど、矢代川とはちがうなあ」
「川底が自然のままのところと、コンクリートで整備されてるところがある」
「この川、どこに流れているのかな」「川に降りて遊びたいなぁ」

見て、感じて、比べて、疑問が生まれる。遠くに行かなくても、自分たちの身近な場所に、こんなにもたくさんの問いがあることに気づいていきます。

そしてこれからは――子どもたちのこの問いをもとに、探究がさらに深まっていきます。

何気なく見ていた風景が、「知りたい」「確かめたい」という思いに変わるとき、学びは一歩深まります。
中学年の子どもたちは今、自分たちの暮らす地域を、新しい目で見つめ始めています。

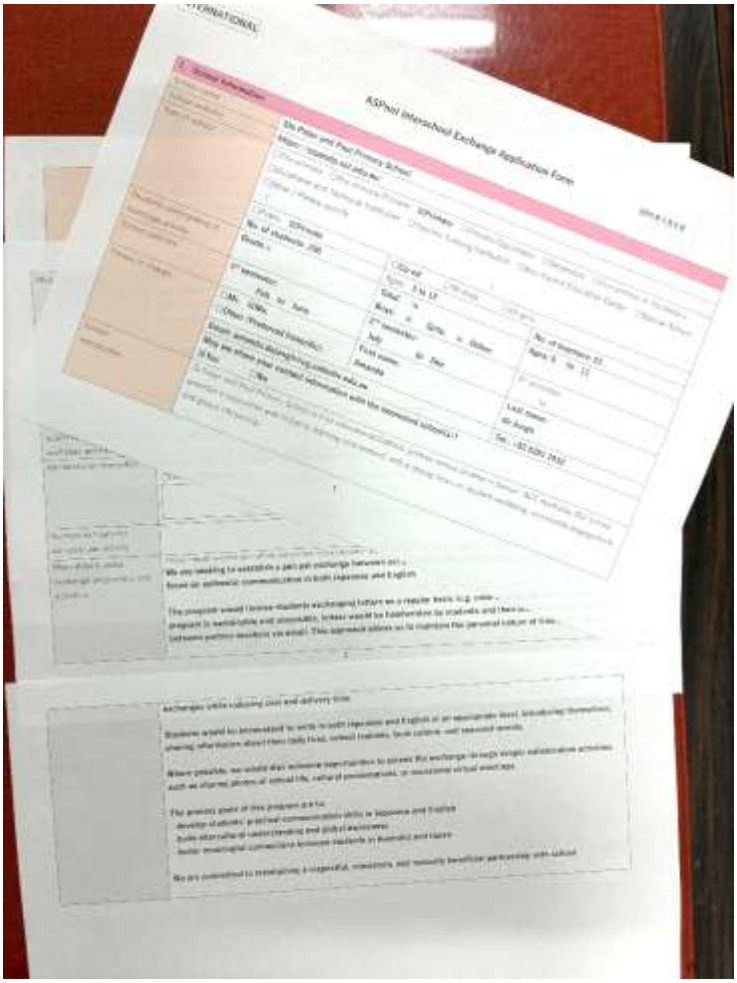
■ 高学年部：世界とつながる一歩

高学年部では、ユネスコスクール事務局から届いた「海外の学校とつながる機会」をきっかけに、新たな挑戦が始まりました。校長が情報を受け取ったその日、担任と共有し、子どもたちに問いかけました。

「外国の小学生とつながってみたい？」

返ってきたのは、迷いのない一言。

「やってみたーい！」



その思いを受けて、申請シートは担任と校長が全て英語で作成しました。子どもたちの「やってみたい」という願いを、大人が形にして世界へつなぐ —— ここにも伴走する教育の一つの姿があります。

そして先日、オーストラリアの「セント ピーター&ポールスクール」とつながることが決定しました。これが、交流申請シートです。→

この学校の交流希望のクラスでは、日本語を第2外国語として学んでいます。つまり、英語だけでなく、日本語でのやりとりという可能性も広がっています。1 年後、どんな交流を実現したのか、ユネスコスクール HP に掲載予定です。

「オーストラリアの国旗について知りたいな」

「日本の国旗について、教えてあげたいな」

「妙高市のいいところを伝えたいな」　　と子どもたちのやりたいことは膨らんでいます。

これから、手紙やビデオレターを通して、学校や妙高の自然、ふるさとの魅力を紹介し合っていきます。

■ 学年部で進む「みらい学習」

今年度から本格的に進めている、学年部での「みらい学習」。

低学年では、命を育てる学び。
中学年では、地域に目を向ける学び。
高学年では、世界とつながる学び。

子どもたちの「やってみたい」を起点に、学びが確かに動き出しています。